



吉高人権だより

2021年 12月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

先入観と偏見

電気電子科 伊能 孝

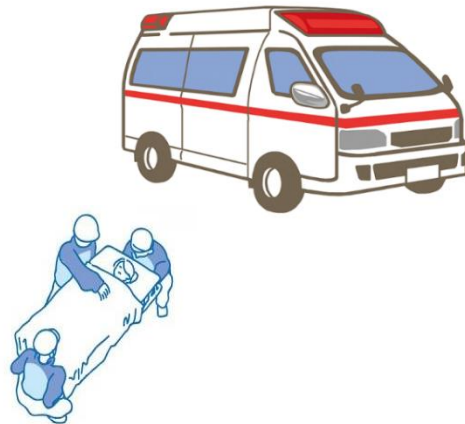
私は高校時代に人権や同和問題について学習した記憶はあまりありませんが、実際、教員になってから、人権・同和教育について学んできました。担任をしていた頃は、ホームルームの時間等で先入観や偏見が差別を生んでいると生徒たちに話してきましたし、自分では差別なんかしていないと思っていました。しかし、今回の人権だよりの題材を探しているときにあるクイズを見つけて考えさせられました。今回はそれを紹介したいと思います。

私は差別なんかしていない

と思っている人、ぜひこのクイズで正解を出してみてください。

お父さんと息子が交通事故で病院に運ばれました。

お父さんは軽傷だったので、近くの病院に運ばれましたが、息子は頭に大怪我をしていたので、世界的な脳外科の権威がいる病院に運ばれました。



運ばれたきた少年を見た脳外科の先生は「なんてこと！この子は私の息子です」と言いました。

私はこのクイズを読んで、「えっ、なんで？」と思いました。結論として「育ての親」と「生みの親」かな？と思いました。違いました。（この資料を紹介していた方も同じでした。）

正解は

「世界的な脳外科の権威の先生」は女性だったから

です。

先生は、「急患は誰だ」と思って行ってみたら、担ぎ込まれていたのが自分の息子だったので驚いたのです。軽傷で近くの病院に運ばれたのは、彼女の夫です。なので、何も矛盾はありません。

この問題におけるポイントは、「医者」、特に「世界的な脳外科の権威」と言われると、「この先生は男だ」と思い込んでしまうという点にあります。こういう思い込みのことを「先入観」と言います。「先入観」がクイズで間違える程度なら何の問題はありません、しかし往々にして先入観が偏見となり、そして差別につながっていくことがよくあると思います。恥ずかしながら私も「医者＝男性」という思い込みをしていました。

偏見はマイナスのイメージしかありません。事実を知り、偏見に陥らないようにしたいものです。

【人権・同和教育講演会】

12月10日（金）に中矢匡さんを講師にお迎えして人権・同和教育講演会が行われました。中矢さんは「地球の上に生きる」というテーマで、80か国を旅したご自身の経験から、シルクロードの遊牧民との暮らし、台湾バナナ農園の労働者の悲哀、パラグアイで誇り高く生きる日本人移民1世の老夫婦の生き様、カンボジアの少年兵だったアキラの生き方、ガンジス川のほとりで自らの死を待つ老人や物乞いをして生きていかざるをえない人々、東日本大震災の被災地の子どもたちなどのエピソードを交え、「人の命」、「平和」、「生きるとはどういうことか」について考えさせられる時間でした。

